

平成 27 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

学部・研究科名等： 地域イノベーション学研究科

事業担当者の職・氏名： 研究科長・小林一成

内線電話番号： 9074

電子メール： issei@gene.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

国際ワークショップの開催

-第 7 回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催-

3. 事業内容の別 (該当するところにチェックを入れてください。)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

地域国際化支援

国際教育プログラムの開発や推進

その他

#### 4. 事業の取組結果

##### (1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

地域イノベーション学研究科の発足から毎年行っている「第7回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (The Seventh International Workshop on Regional Innovation Studies: IWRIS2015)」(図1)を三重大学内で開催し、海外の大学の教授等の研究者を招待講演に依頼し、三重大学、鈴鹿医療科学大学などの三重地域の高等教育機関、地域圏企業、自治体と海外の大学との学術交流を行い、国際的な共同研究、共同事業を促進するために開催した。

##### (2) 事業の背景・これまでの実績

地域イノベーション学研究科が開設された平成21年10月に「第1回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2009)」を、マレーシアのケバンサン大学教授1名・准教授1名、国際イスラム大学マレーシア校の准教授1名の計3名を招待し、三重大学で開催した。この国際ワークショップは、地域の企業や高等教育機関と連携することを目指し、大学外にも参加を呼びかけ、21件の研究発表と2件の招待講演を行い、査読付きの研究論文集を発行した。国際ワークショップ後には、地域企業の工場見学会(シャープ亀山工場、三重電子株式会社他)と文化施設見学会を行い、三重地域とマレーシア地域の学術文化交流を実施した。



図1 IWRIS2015のポスター

**第2回**(平成22年10月)、**第3回**(平成23年10月)の地域イノベーション学に関する国際会議では、以前から本研究科の教員が交流していた実績から、本研究科が世話役となって、本学と国際交流協定を締結した瀋陽薬科大学の教授を招待し、招待講演をしていただき、地域圏企業(中外医薬生産(伊賀市)、万協製薬(多気町))などを訪問していただき、大学だけでなく、地域の産業の動向に関する情報交換会を実施した。

**第4回**(平成24年10月)は、本学工学研究科と以前から国際交流しており、学長が三重大学で博士(工学)を取得したマレーシアのタチ大学と、本研究科の教授が相互交流している実績を踏まえて、全学的に国際交流を推進するために、平成23年度、大学間協定を提携した。そこで、第4回の国際ワークショップでは、タチ大学のMohd Badrul Haswan 化学部長とSyahrul Fahmy コンピュータメディア学部長の2名を招待し、24件の研究発表と2件の招待講演を行い、その後、研究室見学などを行い、学術の相互交流を行った。

**第5回**(平成25年10月)は、平成24年度に続き、大学間協定を提携しているタチ大学のWan Zulkarnain 電気・オートメーション学部長とMohamad Redhwan 学生部長の2名を招待し、17件の研究発表と2件の招待講演を行い、その後、研究室見学、企業見学(三重電子株式会社)などの見学などを行い、学術と地域企業との交流を行った。

**第6回**(平成26年10月)は、台湾真理大学 Kuanju Lin 助教授、南台科技大学 Chun-Sheng Chang

生物工学科長と Chun-Kai Wang 准教授の3名を招待し、21件の一般研究発表と3件の招待講演を行い、研究室見学、企業見学（うれし野アグリ、ナベル）などを行い、学術と地域企業との交流を行った。

### （3）事業実施結果

第7回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2015）（図2）を、以下のスケジュールで実施した。

- 1) 7月15日（7月22日まで延長）発表申し込み（査読用原稿）締め切り
- 2) 8月18日 論文査読結果による採択通知
- 3) 9月15日（9月25日まで延長）印刷用原稿締め切り
- 4) 10月15日（木）-16日（金） 国際ワークショップの開催

場所：地域イノベーション研究開発拠点 3階 地域イノベーションホール

一般講演：19件（博士前期課程の学生：12件（内、留学生2件）、博士後期課程の学生：6名（内、社会人4名）、学部学生：1件）

招待講演：3件（台湾の大学教員2件、カンボジアの大学教員1件）

参加者数：1日目85名、2日目53名、計138名



図2 国際ワークショップ IWRIS2015 での小林研究科長の開会挨拶

### 5) 海外の大学教員の招待日程

南台科技大学（台南市，台湾）の教員1名，真理大学（新北市，台湾）の教員1名

10月14日 来日

10月15-16日 地域イノベーションに関する国際ワークショップ（IWRIS2015）での特別講演と一般講演，地域企業（ナベル）の見学会

10月18日 帰国

プノンペン大学（プノンペン市，カンボジア）の教員（東京在住）1名

10月14日 東京より移動

10月15-16日 地域イノベーションに関する国際ワークショップ（IWRIS2015）での特別講演と一般講演，地域企業（ナベル）の見学会

10月16日 東京に移動

<招待講演題目，教員氏名（職位，所属）>

- a. Bitcoin Reconsidered: Quite a Bit of Innovation, Not a Bit of Coin

Tzu-Wen Sung (Ph.D. Assistant Professor, Department of International Business & Trade, Aletheia University, New Taipei, Taiwan R. O. C.)

- b. Suppression of Upper Urinary Tract Urothelial Carcinoma by the Ethanol Extract of Silkworm Pupa-Cultivated *Cordyceps Militaris* Fruit Body through G2/M-phase Arrest

Ting-Feng Wu (Ph.D. Professor, Department of Biotechnology, Southern Taiwan University of Science and Technology, Tainan, Taiwan R. O. C.)

- c. Attempt of the Royal University of Phnom Penh Japanese Department - Japanese and Japanese Culture Spread Caravans -

Loch Leaksmy (Head Department, Department of Japanese, Royal University of Phnom Penh, Phnom Penh, Kingdom of Cambodia)



図3 真理大学の校章



図4 南台科技大学の校章



図5 プノンペン大学の校章



図6 Sung 先生（真理大学）



図7 Wu 先生（南台科技大学）



図8 Leaksmy 先生（プノンペン大学）



図9 大学院生による発表の様子



図 10 優秀論文賞表彰式（11月6日）

#### <企業見学>

株式会社ナベル（伊賀市）：蛇腹と各種応用製品の製造 <http://www.bellows.co.jp/ja/>

#### （４）事業の意義

本国際ワークショップは、三重地域圏の学際的研究、国際的な共同研究を促進するために、大学の教員・学生と三重地域圏企業の研究者間での英語での意見交流の場を提供することを目的に実施している。すなわち、学生が英語で研究論文を執筆し、英語で研究発表する経験をし、研究と国際交流に対するモチベーションを向上させ、自信を付けて地域社会を牽引する国際的に活躍する人材になることを目指して本事業を実施する。本研究科の学生にとっては、この国際ワークショップは英語の授業の一つに位置づけられており、単に会場の準備や会場係として関わるだけでなく、英語での質疑応答を目の当たりにでき、また今年度は外国からの招待講演者を囲んだバンケットにも参加したことで、英語を使ったコミュニケーションの練習の場としても意義深い。

今年度も以前の場合と同じように、三重大学と大学間協定のある海外の大学との学際的な共同研究と教員交流、学生交流を発展させるために、相互の研究内容の理解と生活環境などを実際に見て理解してもらい、海外からの留学生と教員が三重大学に留学した場合に使用する機器や研究テーマを検討する。

この事業によって、本学と海外の大学とのより深い相互理解が進展し、よりふさわしい博士（前期）課程と博士（後期）課程の学生を入学させることが可能となる。

この相互交流を元に、南台科技大学とは、2014年11月14日に四日市市で開催された三重県主催の日台若手経営交流会の席上で戴謙校長、郭聡原工学院院长、内田三重大学長、小林研究科長他が出席し、研究科間連携協定を締結した。

#### （５）事業の発展性

本国際ワークショップは、地域イノベーション学研究科が主催で毎年開催しており、来年度も外国の大学の研究者を招へいし、同じ時期に同じ形式で開催することになっている。また共同研究を実施するために、台湾の2つの大学からの留学生の来日と三重大学の学生の台湾への派遣について詳細な打ち合わせをしており、双方で有効性の高い大学院学生の相互交流の具体的なモデルとなっている。

また、この三重大学と海外の大学との大学間交流は、三重県の産業界がグローバル展開する

場合の情報収集の場にもなっており、今回、企業見学した株式会社ナベルは、社長が直接、英語で、会社の概要、工場見学の説明をし、歓迎された。この会社では、アメリカ合衆国、韓国、中国で製品を製造しており、台湾、ドイツ、イスラエルに提携先の企業を持ち、多数の国で製品を販売し、グローバル展開に成功している企業で、三重地域圏企業は、三重大学が国際的な学術展開拠点となることに期待している。

#### (6) 中期目標・中期計画における位置づけ

##### 【本事業に係る中期目標・中期計画】

##### **[B-1-b] 2 (研究成果の教育への反映及び社会への還元)**

研究成果を教育に反映し、また、広く社会に還元するため、研究成果の公表や産学官連携活動等を積極的に推進する。

##### **[C-1-a] 1 (知の支援)**

地域に根ざした知の支援活動を促進する。

##### **[C-2-a] 1 (学内国際化)**

国際交流イベントなどによって、国際感覚が自然に身につけやすい学内の国際化を進める。

##### **[C-2-b] 2 (外国人受入れと学生、教職員の派遣)**

留学生、外国人研究者の受け入れ体制及び学生、教職員の海外派遣制度を整備し、充実を図る。

##### **[C-2-c] 3 (地域国際化支援)**

地域の国際化・国際交流の発展を支援する。

##### **[J-1-a] 1 (説明責任)**

社会への説明責任を果たすために広報活動を充実し、情報公開を促進する。

##### 【地域イノベーション学研究科の教育目標】

- 1) 高度な研究開発に関する能力
- 2) 研究開発のプロジェクト・マネジメントに関する能力
- 3) グローバル化に対応した国際感覚

##### ○国際交流事業による教育目標の実施方法

上記3つの能力を、本申請の国際ワークショップで博士前期課程と博士後期課程の大学院生が、研究した内容を英語の論文にまとめて、発表し、外国人と英語でディスカッションし、実体験を通して国際感覚を身につける教育をする。この体験を通じて、外国人に評価される世界的な基準に立った「高度な研究開発に関する能力」、期限までに限られた資源により研究成果を出し、研究内容をまとめる「プロジェクト・マネジメント能力」、研究開発した内容を英語で表現する「仕事に役立つ英語」の能力、すなわち「グローバル化に対応した国際感覚」を育成する。

#### (7) その他

来年度以降も継続して国際ワークショップを開催しますので、引き続き、ご支援を宜しくお願い致します。